

白百合女子大学
言語・文学研究センター
言語・文学研究論集

第1号

-
- 「～てしまう」の用法
 -アспект論に関連して- 鈴木 英夫 三
- 『海道記』における「都」の意味
 -「出発点」が旅に及ぼす影響- 吉良裕美子 ... 一八
-
- 『アメリカ人』: "Self" vs. "Shell"
 -旧世界のアメリカ人- 太田 紀子 1
- 晩年のマーク・トウェインに見られる「ほら話気質」 瀧岡 啓子 14
- 『荒地』の音楽的構造
 -ワーグナーのライトモチーフをめぐって- 熊谷 治子 27
- 《もう一つの殉教》
 ジョルジュ・ベルナノス『カルメル会修道女の対話』 今野 純子 37
-

執筆者

- 鈴木英夫 SUZUKI Hideo (本学文学部教授)
太田紀子 OTA Michiko (本学大学院 言語・文学専攻 博士課程2年)
吉良裕美子 KIRA Yumiko (本学大学院 言語・文学専攻 博士課程2年)
熊谷治子 KUMAGAI Haruko (本学大学院 言語・文学専攻 博士課程2年)
今野純子 KONNO Junko (本学大学院 言語・文学専攻 博士課程1年)
瀧岡啓子 TAKIOKA Hiroko (本学大学院 研究生)

編集委員

- 編集委員長 山辺雅彦 YAMABE Masahiko
田村一男 TAMURA Kazuo
田中善信 TANAKA Yoshinobu

書名 言語・文学研究論集 第1号
2001年3月発行
編集・発行 白百合女子大学 言語・文学研究センター(センター長 佐々木みよ子)
所在地 〒182-8525 東京都調布市緑ヶ丘1-25
電話番号 03-3326-5050
E-Mail gbkc@shirayuri.ac.jp
ISSN 1346-1036

編集後記

- ・念願の研究論文集がようやく第1号発刊にこぎつけられ、関係者一同ほっとしているところです。
- ・本論文集の主な目的としては、本学の言語・文学研究センターに所属する学生、つまり国語国文学・フランス語フランス文学・英語英米文学3専門分野の博士および修士課程の学生等に発表の機会を提供し、さらなる向上を図ろうとするものです。
- ・とはいえ、あくまでいわゆるレフェリー付きの論文集なので、大京子学長、鈴木英夫教授の寄稿は別として、掲載論文は主として3専門分野の博士課程に在籍中の者、計13名の応募から厳選されたものです。最低2人の審査員の目が通っています。
- ・残念ながら選に漏れた方々は、他日を期して内容にいつその磨きをかけてほしいと思います。
- ・創刊号ということで、雑誌の体裁、割りつけ、印刷所との交渉、その他細々とした予想外の難題が多々生じたのですが、解決に尽力なされた助手の大木理恵子、水谷朋子、村山のぞみの3氏に編集委員一同深く感謝いたします。(文責、山辺)